



# 陰影の棲家

美しい影を求めた山林の暮らしの提案

ダイニング：木貫調で仄暗い室内には不思議と家族の心を暖炉の火や庭の奥の川と山へと向かわせる。



静かな木陰の庭：木漏れ日が差し込むプライベートな通り庭。



リビング：南北に心地よい風が抜け、ダイニングに木漏れ日が差し込む。



夫婦の寝室：勾配天井により光の陰影が生まれる。

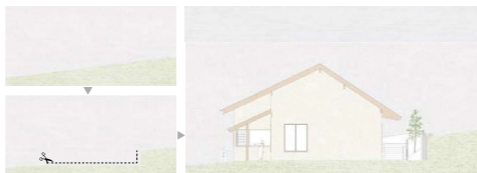
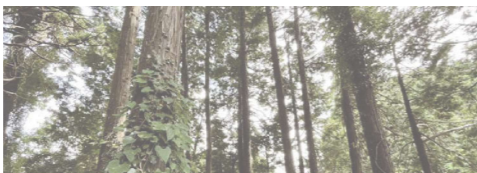


書斎：庭とリビングで遊ぶ子供を同時に見渡せる位置で仕切ることができる。

## 01 陰影への根源的憧れを抱える私たち

## 02 京都産杉丸太柱による陰影表現

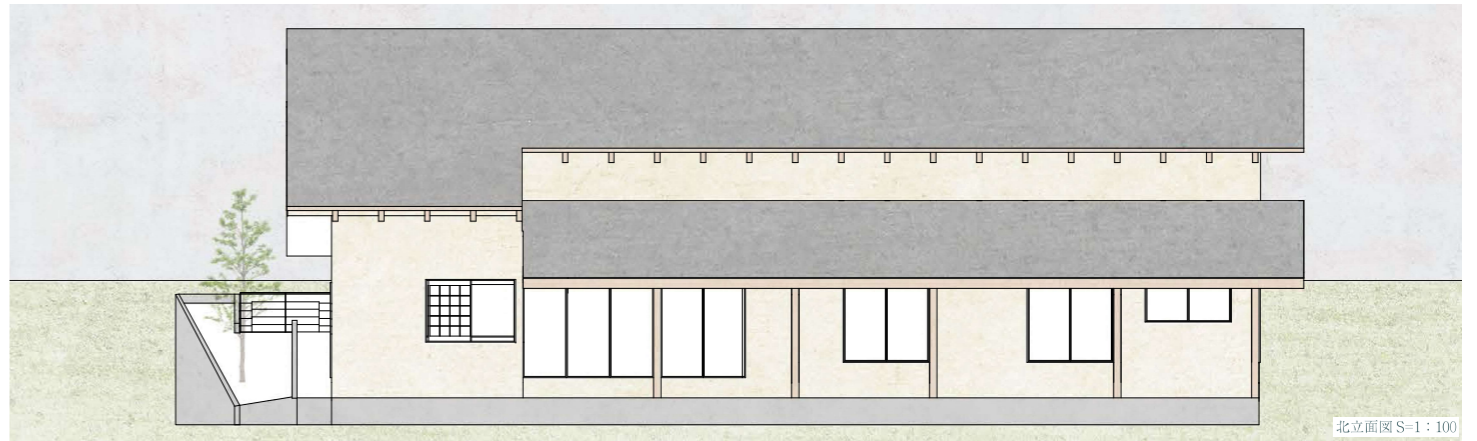
## 03 斜面を掘り下げ私空間を設計



我々は日々過剰な光に照らされて生きている。オフィスは750lx以上、教室は500lx以上、外では太陽に照らされ、室内では電気に照らされ、照明によるひたすらな明るさに晒される我々に本当に必要なのは、庭で揺れる木々、ゆらぐ暖炉の火をぼんやりと眺めることができる、仄暗い家ではないだろうか。陰影の中に住むことの快楽を追い求め、多世代が一緒に長く住んでもいつまでも飽きない住宅と庭、そして影を設計した。

京都府では海外産の安価な木材の流入などに押され林業従事者の意欲が低下、林業自体の衰退が問題となっている。しかし、京都の風土で育った木目がまっすぐで年輪が狭く美しい杉は京都に建つ家の建材として強度・美しさ・寿命どれをとっても一級品である。木材の地産地消を目指し京都府産杉の化粧丸太を柱として多用し、丸太による微妙な陰影を楽しめる建築を目指した。

敷地全体を通した高低差に対して、土地を約1m掘り下げて住宅を構える。掘り下げたことによって生じたレベル差によって出来た空間は道路に面しながら段差と植栽により路上からは覗かれない静かで落ち着いた木陰の庭となる。一方で斜面を掘り下げたことにより、川への眺望が望める北側の庭とリビングとの高低差はほとんどなくなっている。このため傾斜地ながらリビング、テラス、庭がまるで地続きのように感じられる。



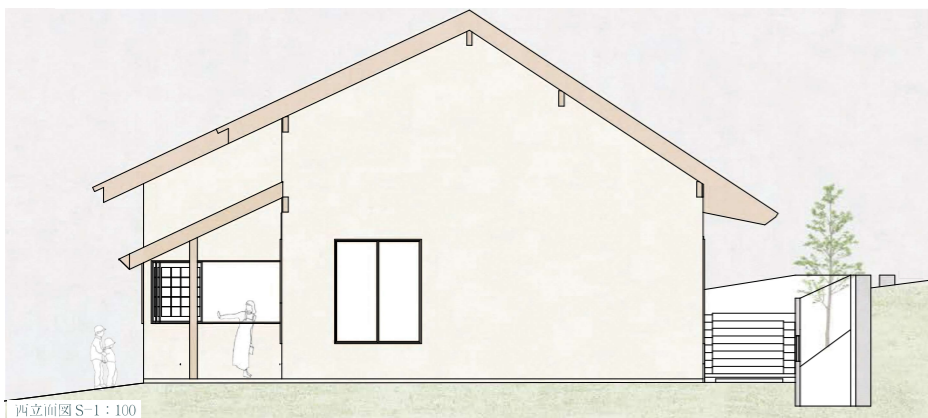
北立面図 S-1 : 100

### 多世代の居場所づくり

3世代が無理なく暮らせるように7つの工夫を凝らし、多くの居場所を作った。

1. 子供を見守れる静かな書斎  
リモートワークができる静かな書斎から庭とリビングで遊ぶ子供を見守る。
2. 屋根に守られた半外部空間  
川への眺望が望めるテラスは庇がかかった半屋外空間となっている。
3. キッチン一体の作業場所  
家事スペースではリビングの子供たちを見守りつつ裁縫や手芸ができる。
4. 三世代対応の広いキッチン  
将来的に三世代で料理を作る可能性を考慮して広めのキッチンとした。
5. 祖母の部屋とトイレを近く  
将来を考えると祖母の部屋はトイレに近いところに配置した。
6. 脱衣、洗濯、乾燥の最速動線  
洗ってから干すまでを最速でこなせる家事動線をトイレ動線と別で確保。
7. 柔らかな影差し込む小庭  
プライベートが保たれた静かな庭は落ち着いて読書するのに最適。

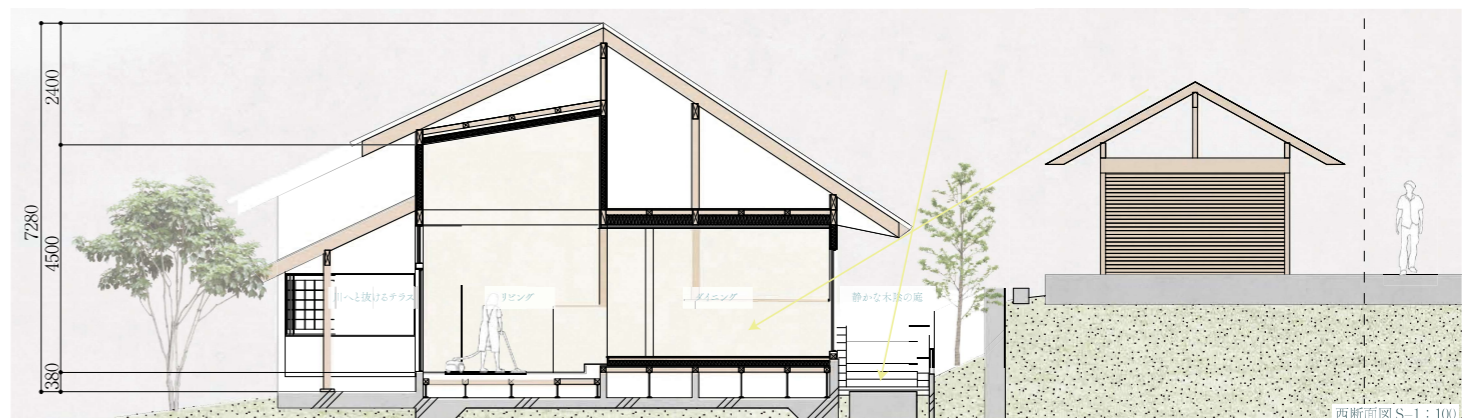
面積表  
敷地面積 588 m<sup>2</sup>  
延床面積 152 m<sup>2</sup>



西立面図 S-1 : 100



配置図



西断面図 S-1 : 100